

令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

教育部  
図書館  
管理係

事務事業名	図書館維持管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	図書館利用者の安全と衛生を確保し、便利で快適に図書館を利用できるようにする。				
内容	施設の修繕及び保守点検並びに館内の清掃、衛生管理を行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	図書館利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	冷暖房空調保守点検回数	図書館が委託する冷房保守点検の回数	目標	2	2	2	回	
		実績	2	2				
成果指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	館内外からの衛生・美化に関する苦情	館内・敷地内の衛生・美化に関する市民からの苦情を受けた件数	目標	0	0	0	件	
		実績	0	0				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	H29決算額	H30決算額	R1予算額	R2予定額	R3予定額			
総事業費	49,631	48,067	46,384	50,000	50,000			
事業経費	36,631	35,067	33,384	37,000	37,000			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00			
概算人件費	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	施設全体の経年劣化が進んでいるため、定期的な施設点検を行い、維持管理に取組む必要がある。
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない。
		主体の妥当性	市が推進すべき	政策的意思決定を必要とするため。
	有効性	指標の実績	達成できた	想定どおりのサービスを提供できた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた。	
	手段の妥当性	妥当	なくてはならない事業のため。	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	開館から17年以上が経過し、経年劣化に伴う施設の修繕が増える傾向にあり、特に冷暖房設備の早急な改修が必要である。
今後の取組み	適正な施設の点検及び修繕を行うことにより、安全と衛生の質を落とさず、快適な空間として図書館を利用できるようにする。

令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

教育部  
図書館  
管理係

事務事業名	図書館まつり事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	図書館まつり及び図書館こどもまつりを通じて図書館の活動をPRすることにより、新たな利用者を確保し、日常的な図書館利用を促す。				
内容	図書館まつり及び図書館こどもまつりを通じて図書館の活動をPRすることにより、新たな利用者を確保し、日常的な図書館利用を促す。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	図書館利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	図書館まつり打合せ回数	職員及びボランティアによる打合せ会議開催回数	目標	10	10	10	回	
		実績	10	10				
成果指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	図書館まつり参加者数	図書館まつり参加者数	目標	350	350	350	人	
		実績	419					
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	H29決算額	H30決算額	R1予算額	R2予定額	R3予定額			
総事業費	45,540	45,520	45,540	45,540	45,540			
事業経費	40	20	40	40	40			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00			
概算人件費	45,500	45,500	45,500	45,500	45,500			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	多くの市民に親しんでもらい、来館者を増やすことにより、図書館の利用率が高められる。
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない。
		主体の妥当性	市が推進すべき	一部イベントの委託は可能だが、全体的なとりまとめを必要とするため。
	有効性	指標の実績	達成できた	打合せ回数の活動指標目標達成状況は100%になった。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた。	
	手段の妥当性	妥当	図書館の利用率が高められる。	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	日常的に図書館を利用している方の参加が多く見受けられる。新たな利用者が参加できるような図書館まつりとなるための催事内容及びPR方法等が課題である。
今後の取組み	図書館まつり等の催事内容の検討において、開館時から事業への協力をいただいている図書館ボランティアとの連携を図りながら、充実した催事を企画する。

令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

教育部  
図書館  
管理係

事務事業名	映画会開催事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	映画会を開催することで図書館に来館する機会を作り、来館者の増につなげる。				
内容	大人対象の映画会である図書館映画会及び子ども映画会を開催する。ポスターやお知らせ版にて周知している。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	図書館利用者

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	映画会開催回数	年間に図書館映画会及び子ども映画会を開催した回数		目標	24	24	24	回
実績				30	27			
成果指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	映画会入場者数	図書館映画会及び子ども映画会入場者数		目標	360	360	360	人
実績				349	384			
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	H29決算額	H30決算額	R1予算額	R2予定額	R3予定額			
総事業費	13,267	13,316	13,310	13,310	13,310			
事業経費	267	316	310	310	310			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00			
概算人件費	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	多くの市民に親しんでもらい、来館者を増やすことにより、図書館の利用率が高められる。
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない。
		主体の妥当性	市が推進すべき	イベントの委託は可能だが、著作権の関係もあり市が推進すべき。
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定どおりのサービスを提供できた。
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である。
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた。	
	手段の妥当性	妥当	図書館の利用率が高められる。	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	著作権や予算の関係で上映作品に限られる中で、多くの入場者を望める作品を選定し、上映していく必要がある。また、入場者が固定してきているので、新たな入場者につなげられるようなPRや作品選定が課題。
今後の取組み	入場者の意見などをもとに、作品の選定を進める。映画会以外の事業の検討も必要である。

令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

教育部  
図書館  
サービス係

事務事業名	資料選定購入事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	市民の教養、調査研究に因るため資料を選定購入し利用に供することにより、教育文化の向上を図る。				
内容	下妻市立図書館資料収集方針及び下妻市立図書館資料収集計画(年次作成)に基づき資料を選定購入し、市民の利用に供する。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	新刊案内、展示会等による選定回数	新刊案内等による選定書での選定と展示会等による見計らいでの選定回数	目標	52	52	52	回	
		実績	55	57				
成果指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	図書館資料点数	図書館に蔵書されている資料点数	目標	195,000	210,600	215,500	点	
		実績	197,610	211,424				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	H29決算額	H30決算額	R1予算額	R2予定額	R3予定額			
総事業費	23,033	23,033	23,038	25,043	25,043			
事業経費	10,033	10,033	10,038	12,043	12,043			
特定財源	140	164	107	107	107			
従事職員等数	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00			
概算人件費	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	社会情勢の変化にかかわらず恒久的なものである
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	専門知識と継続的なサービスを供する必要がある
	有効性	指標の実績	達成できた	想定どおりのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	妥当	専門知識が必要かつ効率がよい	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市民の教養、調査研究に因るため必要な資料を必要十分に揃え、かつ予算内で選定購入する必要があるが、限られた予算では限界がある。
今後の取組み	新刊案内や展示会を利用し、資料の幅広い情報を得るとともに、リクエスト等により利用者ニーズを把握して、より良い資料を選定購入する。

令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

教育部  
図書館  
サービス係

事務事業名	蔵書管理事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	計画的に蔵書管理をし、利用者からの要求に対し適切な資料提供をすることにより教育と文化の向上を図る。				
内容	利用者への適切な資料提供のため、計画的に蔵書点検、書架整理、修理、装備をし蔵書管理をする。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	蔵書数	蔵書点検時での蔵書数	目標	205,000	213,000	214,000	点	
		実績	205,146	210,545				
成果指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	蔵書点検対象点数	年1回蔵書目録と蔵書を照合し、蔵書の現状や紛失資料の把握を行う蔵書点数	目標	195,000	203,000	205,000	点	
		実績	194,784	202,996				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	H29決算額	H30決算額	R1予算額	R2予定額	R3予定額			
総事業費	20,641	20,821	21,188	21,188	21,188			
事業経費	1,141	1,321	1,688	1,688	1,688			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00			
概算人件費	19,500	19,500	19,500	19,500	19,500			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	図書館運営の根幹をなすものである
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	専門知識と継続的なサービスが必要である
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定どおりのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	妥当	専門知識が必要かつ効率が良い	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	蔵書数が増えるにしたがって、蔵書点検対象点数も増えていくので、それだけ点検作業に時間がかかるようになってくる。
今後の取組み	書架整理、修理については今まで同様、図書館ボランティアの協力を得ながら実施していく。紛失資料対策としては、BDS(持出防止システム)の性能を維持して、紛失本防止に役立てたい。



令和元(平成31)年度 事務事業評価シート(平成30年度実績)

教育部  
図書館  
サービス係

事務事業名	図書館利用サービス事業								
総合計画の体系	目標	2	教育、文化	基本	2	生涯学習、文化、スポーツ	分野	5	図書館

1. 事業の概要(Plan)

目的	市民の教養、調査研究に応えるため資料の貸出および相談に応じ、教育と文化の向上を図る。				
内容	利用者へ適切で迅速に資料提供を行えるよう、図書等の貸出・予約・相互貸借・レファレンスを行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	市民

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	図書等の貸出点数	図書等(DVD・CD等含む)の貸出点数	目標	233,000	233,000	230,000	点	
		実績	233,555	227,114				
成果指標	指標名	説明	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
	図書等の貸出点数増減率	昨年度に対して図書等の貸出点数の増減率	目標	減なし	減なし	減なし	%	
		実績	1	-3				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	5 社会教育費	目	5 図書館費
事業費(千円)	H29決算額	H30決算額	R1予算額	R2予定額	R3予定額			
総事業費	37,916	39,356	39,385	39,385	39,385			
事業経費	5,416	6,856	6,885	6,885	6,885			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事職員等数	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00			
概算人件費	32,500	32,500	32,500	32,500	32,500			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	社会情勢の変化にかかわらず恒久的なものである
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	専門知識と継続的なサービスを供する必要がある
	有効性	指標の実績	おおむね達成できた	想定どおりのサービスをほぼ提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標をほぼ達成できた	
	手段の妥当性	妥当	専門知識が必要かつ効率がよい	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	図書等の貸出率を上げなければいけないが、いわゆるベストセラーばかりで揃えるのではなく、貸出不可の辞書辞典類や利用の少ない郷土資料・大活字本等、利用者ニーズに配慮した蔵書バランスを考えて揃えることが課題である。
今後の取組み	利用者が借りやすくなるスタイルを考えていくとともに、現在図書館を利用していない市民の方、これから図書館を利用するだろう子どもたちに図書館を少しでも利用しやすくするよう方策を考えていく。